

(㈲佐々木石材工業(旭川市神居5条11丁目、佐々木彰宏社長)は1958年創業で、これまでに2万基以上の墓石工事を行っている。鷹栖町工業団地にある自社工場では原石から石の切り出し、研磨加工、文字彫刻を行い、本社隣には屋内・屋外の墓石展示場があり、同社の技術を間近に見ること

ができる。
お墓参りが集中するお盆を間近に控え、墓石ディレクターでもある同社の佐々木寛太郎営業部長に、最近のお墓事情や自身のお墓への思いを聞いてみた。

最近はテレビや週刊誌の影響で「墓離れ」「墓じまい」という言葉が独

お墓参りに勝る教育はない

佐々木石材工業 佐々木寛太郎営業部長

り歩きしている状態のようになります。旭川はじめ自治体が合葬墓をつくる動きも多くなっていますが、「墓じまい」については、社会がもう少し慎重になるべきだと思います。

お墓に勝る情操教育や道徳教育はありません。子どもたちが、ご先祖様のお墓を磨き、手を合わ

結果が出ている)
最近は、墓守（はかもり）となる息子や娘に負担をかけたくないと思う遠慮しがちなシニア世代が

を合わせる頻度によって「他者へのやさしさ」にかなりの差が出た。また、教戒師が受刑者に行つたアンケートでは98%が墓参りの経験がないという

てあげることは、お墓を造らないことや壊すことではないはずです。「ご先祖様に想いを馳せ、今ある自分を見つめ直す機会がお墓参りなのです。

ご先祖様に一年分の報



せる親の姿から学ぶものはとても多いのです。あの尾木ママが監修した全国調査でも、お墓の前の供養経験が子どもたちの思いやり、優しさに大きく関連していることが分かりました。

(※昨年、日本香堂が全國の中高生1200人以上を対象に調査したところ、お墓参りや仏壇に手

多いのも事実です。しかし、最近のお墓は雑草の生えない造りになつてるので、昔のようにお墓掃除の手間はかかりません。逆にお骨を土に返さず納骨堂に置いておくほうが、維持費用の面で後々負担になります。

子どもや孫のためにし

てあげることは、お墓を造らないことや壊すことくれたと考えるとよいでしょう。

私自身も30歳で胆石が発症し激痛で苦しみ、胆囊ごと摘出しましたが、胆管がんで亡くなつた祖父が胆囊を摘出するよう導いてくれたのかなと思つています。そう思うとあの時の激痛も逆にあります。がたみになります。

最近8歳の息子が曾祖父のことを聞いてくるようになりました。曾祖父に会いたいとも言うようになり、私の記憶の中の祖父を息子に伝えていました。それが息子のアイデアティティの一部にもなつてくると思います。

私の個人的な感想ですが、アルバムの中にお墓参りの写真がある家は幸せな家族の場合が多いといます。大事な子孫をきちんと育てるのもいいかと思います。大事な子孫を育てる方向に導いてくれるはずです。願いが叶えばご先祖様のおかげ。悪いことが起きても、もつと悪くなるところを止めます。

墓を、自宅以外で家族の集まる場にしてみてはいかがでしょうか?